

“ふじのくに” 士民協働事業仕分け結果（事業別個表）

事業番号	12	事業名	ふじのくに「食の都」づくり推進事業費
------	----	-----	--------------------

1 基本情報

実施日／班名	10月15日 第3班	時間	11:47～12:44
担当課名	経済産業部 マーケティング推進課	事業費	24,300千円

2 判定結果

仕分け結果		県民評価者判定内訳(人)					
県実施 (抜本見直し)	判定区分別	行政関与不要	10				
		行政関与必要	⑪	国・市町実施	4		
				県実施	⑦	抜本見直し	⑤
						一部見直し	2
	現行・拡充	0					
判定理由別	仕分け結果と同一区分を判定した県民評価者の主な判定理由内訳(人、複数回答有)						
				・事業効果の把握・検証方法や目標の設定方法を見直すべき	4		
				・県の役割(市町、関係団体、県民等との役割分担)を見直すべき	3		
				・効果がない(又は低い、不明確な)ため、事業内容を見直すべき	2		
				・事業の効率化を図り、コストを縮減すべき	2		

3 具体的な見直し・改善策又はその他意見

<p>&lt;行政関与不要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 民間や企業、学校などが取り組んでいるし、果たして県がやるべきことか。</li> <li>・ 表彰の選考基準が明らかにならないと、今後の食育文化と人材育成効果、発展が見込めないと感じる。</li> <li>・ 観光の観点からは、東部、中部、西部、それぞれの地域性が異なるのでは。</li> <li>・ 一次的ブームに乗っての仕事人やその講座に費用がかかりすぎていると思う。</li> <li>・ 行政が進めているのに、一般の人達までの意識、知名度が低いと思う。</li> <li>・ 参加しやすい会費や興味のもり上がり部分を見直し、一部の人達だけでなく、広く、わかりやすく、もっと身近なものとする必要があると思う。</li> <li>・ 事業番号 11(6次産業化推進事業費)と同様に費用対効果の考え方が足りない。</li> <li>・ 目的が①食文化を創る②産業振興と両方あるが、絞らないとあいまいな事業展開になっていると思う。</li> <li>・ 情報発信は、民間やマスコミが得意とする分野だと思う。</li> <li>・ 「ふじのくに食文化創造講座」は、このようなイベントがあったのかと初めて知った。民間カルチャースクールでも良いものはちゃんとお金を払って参加する。県が格安で企画するとラッキーと思って応募することはあるが、少人数が享受するものより、もっと多くの人が参加できるといいと思う。</li> <li>・ 事業番号 11(6次産業化推進事業費)で「食品産業はリーマンショック後も伸びている。ここに力を入れたい。」といていたのに、この事業では「食品産業が衰退しているからサポートが必要」という発言があり、矛盾していると思った。</li> <li>・ 「食の文化」は歴史的に根付くもので、県が啓蒙するものではないと思う。</li> <li>・ 県産農産物を県民に認識させるには、学校給食等で児童に知らせるほうが効果があると思う。</li> </ul>
---

- ・ 「ブランド化」と「安全・安心」は県が推進すべき
- ・ スーパーマーケットに静岡産コーナーが目につくようになったが、価格が高いように感じる。
- ・ 県がなすべきことは、せいぜい情報発信程度ではないか。同じお金を使うならば、もっとテレビ等を活用し静岡県に関する各種情報発信の中で行えばよい。
- ・ 食育、食文化の形成については、地域(市町)や民間にまかせるべきであり、県の経済産業部が果たすべき役割は乏しいのでは。
- ・ ふじのくに食文化創造講座は県が企画して行う妥当性に疑問。
- ・ 表彰制度は意味不明。食のリーダーは意義、必要性不明。
- ・ 県の仕事として仕事人を育てることで地産池消が増えるとは思えない。よっぽど地域の生産物を地元で手軽に求めることができるようにすることのほうが必要に思える。やはり民間でやるべき事のように思える。料理人と生産者のむすびつけならば六次産業化推進事業でやればよいと思う。
- ・ 仕事人を身近に感じられないので、意味がないと思う。
- ・ 仕事人を表彰することが食文化を広げることになるのか。
- ・ 表彰された人がしっかりPRをしているのか、不明確。

#### <国・市町実施>

- ・ 食材に恵まれている利点を生かすことはいいが、行っていることは商売化していると思います。
- ・ 「食の都」づくりより、食育に力を入れて未来につながる健康へ力を入れて欲しい。食育の知識をつける人を育てるとか、子供たちに役立てるように方向を変えて欲しい。県民の健康を維持していける情報も必要だと思う。
- ・ 県として、市町あるいはJAなどに指示を出して、地域ごとに細かく、ひとりでも多くの人に認知していき、広まっていくほうが効果があると思う。
- ・ 基本的に各市町の個性を生かすべく、地域の主体性に任せるべき。県としての役割は、県内外への広報活動程度でよいのではないか。
- ・ 6次産業化推進事業と統合すればよいのではないか。新商品コンクールなどでも一緒に行えると思う。
- ・ 料理人を呼んで食を提供するというのは施設などでも行っている。必要性がわからない、そこまでする必要があるのか。
- ・ 地域に食育の会などがあり、学校や施設、ケアホームなどにもお願いすれば無償で来てくれる。市町で十分だと思う。
- ・ 料理人全員に宣伝しているのか。行うならば開催場所も公民館など一般の人が参加しやすいところでやるべき。
- ・ 料理学校の生徒たちに広めるのは大変重要なことだと思う。

#### <県実施(抜本見直し)>

- ・ 事業番号 11(6次産業化推進事業費)のことと重なっている。
- ・ 観光地に行くとのぼり旗等に新鮮と書いてあるが、食べると新鮮でないものが出てくる。食の都を目指しているのにふさわしくない。観光誘致を促進するのに、県を中心に各地方自治体に食の安全をチェックする機能を設けて欲しい。
- ・ 食の安全のため衛生検査を行う場合、抜き打ちでなく事前に保健所が連絡する場合がある。そのときはいいが、その後が安全であるか疑問。
- ・ 料理人 60 人を仕事人として表彰する必要があると思わない。地産池消であるならば、特別な料理人だけでなく一般人でもたくさんいると思うので、人づくりのための予算をとりすぎではないかと思う。

- ・ ふじのくに食文化講座は経費がかかりすぎだと思う。開催する必要があるのか。
- ・ 県は情報発信及び誘客に予算を組み、無駄のないようにして欲しい。
- ・ 食育はとても大切なことだと感じている。今まで家庭で自然に作られた食文化が今乱れつつあると強く感じている。できれば各家庭・子供たちに食の大切さを感じる事の出来るほうにお金を使って欲しいと思う。県産品を使ったもっと身近な、日常食べる料理講座を広げて欲しい。
- ・ 経済効果ばかりに目がいくと、とても冷たい仕分けになると感じるが、税金を使っている以上、やはり県民に見える効果がないと納得いかない。資料不足が理解不足につながると感じた。
- ・ 地産池消、農業の発展には必要かと思いますが、県がやるべきか問題あり。現在も各地で種々のイベントを企画して実施しているので、あくまでも県としては、「道しるべ」「サポート」に徹すべきである。  
(10月29日浜松の中心街千歳で職人市場を開催。ここでも6商店街で企画、実行している。)
- ・ 事業番号11(6次産業化推進事業費)と同様、マスコミをうまく利用して、イベントのバックアップに専念すべき。